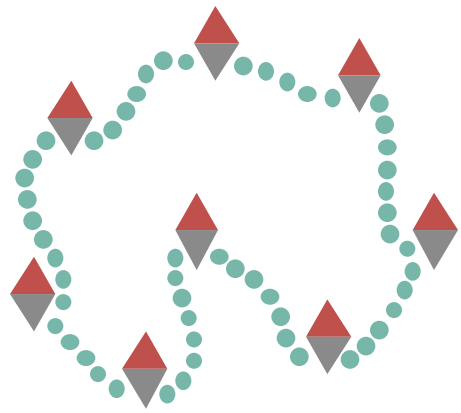


曲線でつなぐバス停

首里の風景とはどのようなものだろうか
すぐに連想したのは
赤瓦と石畳の風景であった
しかしそれは
主役となる風景
今回はその影となる
脇役的な存在を置いてみてはどうだろう
赤瓦の街並みの間を埋めて
バスがそこを繋いでいく
そんなことを考えてみた



では、影となる存在とはなんだろうか
例えば
首里城でいうところの城壁
街でいうところの建物の間を埋める木々
琉球の城壁は優しい曲線を描いている
その曲線を縦にして
屋根のラインにする
力強い木々を縦格子で表す
城壁の琉球石灰岩は
木々の中にちりばめられて葉になる
城壁に太陽の光が差し込むと
木々と石の葉の影が落ちる

そして
城壁の曲線は歴史ある首里の街並みの
いとむかしをつなげていく...

...といいなあ。

仕上げ
屋根：ポリカーボネート(透明)
支柱：150×50角パイプ
腰掛け：セラガンバス
その他：琉球石灰岩

